

かわら版

社団法人版第 28 号

発行責任者 社団法人北海道社会福祉士会会長 柏 浩文

巻頭言

「改めて、社会福祉士にできる災害支援を考える」

社団法人北海道社会福祉士会会長 柏 浩文
(はじめに)

東日本大震災で被災され、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、避難されている方々にお見舞いを申し上げます。東日本大震災は、地震及び津波により、東北・関東地方に未曾有の被害を与えました。それに加え、原発による大事故が起きたため、放射線による被害も拡大している状況です。

(被災地への会員派遣)

日本社会福祉士会が全国の会員に被災地への派遣登録を呼びかけた結果、登録者数は、全国 386 名、本会 13 名となっています。(7月4日末現在)

被災地への支援活動は、7月4日現在、宮城県の 5カ所の地域包括支援センターに4月から毎日2～4名を継続的に派遣し、延べ859名。岩手県には、県庁と3カ所の地域包括支援センターに4月から毎日1～2名を継続的に派遣し、延べ311名となっています。(県庁への派遣は4月末で終了)福島県には、県士会事務局への応援として4月に1週間、日本社会福祉士会の事務局職員を派遣しており、今後の支援については、福島県士会とも随時連絡を取りながら、進めて行くことになっています。本会の会員派遣状況は、大槌町、東松島市、石巻市渡波地区の地域包括支援センターに8人、派遣延べ日数は36日となっています。

本会も、長期的な視点に立ち、被災地への会員派遣を継続するため、中央共同募金会から300万円の助成金を獲得しました。これにより、会員へ旅費相当分にあたる活動支援費を支給することで、被災地に行って活動したい会員を後押ししていきます。7月2日に仙台市で「震災支援に関する東北ブロック及び近県士会打合せ会」が開催され、本会は、青森県及び秋田県士会と協力し、岩手県への会員派遣を重点的に実施していくことになりました。そのため、一人でも多くの会員の皆さんに登録いただきたく、4月号に引き続き、派遣登録を呼びかけることにしました。ご協力いただける方は、7月末に日本士会から送付された登録フォームを本会事務局まで提出してください。

(緊急ソーシャルワーカー緊急派遣事業への協力)

本年3月末に北海道教育庁から北海道に避難してきた児童生徒等を対象に実施する「北海道スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業」への協力依頼がありました。この事業は、本会事務局を通じて道教育庁に名簿登録し、道は各市町村教育委員会からの派遣要請に基づき、名簿登録者の中から選定する仕組みとなっています。派遣期間は、1校あたり1日6時間、週2回最大2ヵ月程度を基本としており、詳細は、派遣先の学校とスクールソーシャルワーカーとの協議となっています。

本事業についても、4月号に引き続き、協力を呼びかけることにしました。現在、登録者は7名。児童福祉・教育分野で働いた経験があり、相談業務の経験者でご協力いただける方は、同封した登録シートを本会事務局まで送付してください。今回は、北海道に避難してきた児童への心理的ケアが目的ですが、これを機会に平時のスクールソーシャルワーカーにも社会福祉士の登用を広げていきたいと考えております。ご協力をお願いいたします。

(最後に)

今後も、被災地及び北海道への避難者への支援等について検討をすすめていきたいと思っております。皆さんの「こういうことをやってみたい」という積極的なアイデア、中心となって進めてくれる方をお待ちしています。皆さんのお力添えをお願いいたします。

緊急！避難者支援勉強会

参加費無料！！先着70名！！

《日時》8月27日(土) 10時～11時30分

《会場》札幌市ボランティア研修センター

(札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ2階)

《テーマ》

「避難者支援活動の実際-社会福祉士に求められる役割-」

《講師》東日本大震災市民支援ネットワーク・

札幌「むすびば」うけいれ隊メンバー

澤下靖典さん(社会福祉士・本会前理事)

《申込方法》本会事務局に電話、FAX、メール等で8月22日までに氏名をお知らせください。

被災地活動報告 VOL3

釧路市東部南地域包括支援センター
井上 雅敬 会員

平成23年5月24日～28日までの5日間、宮城県石巻市渡波地域包括支援センターへの社会福祉士総合相談業務後方支援活動に参加してきました。私の派遣された渡波地域包括支援センターでは5月11日から支援が開始されたばかりで、私は第4陣として1～3陣の社会福祉士が支援体制を徐々に作り上げてきたところを引き継ぐ形でスタートしました。

主な活動内容は担当エリア内の避難所のアセスメントを継続的に行い、地域包括との連携をやすくするために各避難所のキーパーソンとのパイプを強化することでした。震災により相談機能を一時失った地域包括の総合相談機能の再構築ともいえると思います。地域性や避難所の規模に応じた包括支援センターの介入の方法を地元包括センター長とともに検討し、形を作り上げていくといった活動で、とても貴重な体験となりました。震災後2ヶ月以上が経過した時期での活動でもあり、多くの避難所では日中は復興に向けてのそれぞれの取り組みがあり不在の方も多く見受けられました。また3か月をめどに終了を予定している各種支援団体もあり、避難所も



徐々に変化している状況でもあったと思います。とある避難所では自立した生活を取り戻すために外部支援を最小限にとどめたいと思っているとおっしゃっているリーダーにも出会いました。地域包括ということもあり、高齢

者の生活状況の聞き取りを中心に避難所を巡回しましたが、いただいた相談には避難所での集団生活を通して見えてきた、母子世帯や精神疾患に関わる相談もありました。徐々に医療等の緊急支援から生活再構築への支援が必要になってきており、今後はますます社会福祉士の力を発揮できるニーズが増えてくると感じました。



活動を通じて感じたことの一つに、市街地と過疎地域の地域性があり、その支援の手法も地域の求めている支援になるよう地域性に配慮をする必要があるということでした。渡波地域包括担当エリアは、合併した旧牡鹿町を担当しており、市街地とは社会資源の状況や地域住民のつながりの深さなどで違いがあり、避難所のアセスメントを続けていくうちに市街地とは違った支援を模索するようになりました。

また過疎地域の被害の状況によってはコミュニティの再生のめどが全く立たず、行政区解散予定の地域があり、市街地でも仮設住宅への転居も進み、新しいコミュニティの誕生していく段階となり、地域の再構築がなされていく過程に合わせた支援が必要であると感じました。

日本社会福祉士会の支援活動が被災地域の復興に大きな力となれるように、継続的な支援活動が続いて行くことを願っています。



イベント報告

2011 ソーシャルワーカーデー記念行事を終えて

担当理事 大島由希子

2011年7月18日海の日にはソーシャルワーカーデー記念行事が開催されました。エルプラザホールでの記念行事には206名の人たちが集まってくださいました。

第1部は映画「大地の詩—留岡幸助物語」の上映を行い、第2部は山田火砂子監督と本会の柏浩文会長のトークショーが行われました。

映画も北海道で行われていた囚人による道路開拓など、歴史的な内容と共に囚人の人権擁護また、家庭による教育の大切さ等考えさせられるものでした。

また、第2部のトークショーも、山田火砂子監督と柏会長の明るいトークで終始笑いの耐えない、それでいて中身の濃い興味深いものとなりました。

監督が昔女優をされていた頃の話や、初めて北海道に来た時のびっくりしたエピソードな



どもお話され、会場は笑いに包まれて始まりました。留岡幸助さんの映画を作ろうと思ったきっかけを話されています。以前に「少年期」という藤田俊二さんの本でそれは現代の家庭学校をモデルにして映画を1回作ったこ

とがあり、そこで留岡幸助さんを初めて知り、留岡さんの本の中で「教養ある慈母に育てられた子供は不良にならない。また無教養でも慈母であればいい」ということに凄く感動し、一生懸命に調べ留岡幸助さんの生涯を撮ったと話されていました。

福祉の映画を撮ろうとしたきっかけは重度の知的障害のお子さんと医師に宣告され、自殺も考えた時に、あるキリスト教会の横を通ったらいい音楽が流れており、遊ぶのに丁度いいと思ってそこの教会に遊びに行っているうちに、いろんな勉強をさせてもらい立ち直るチャンスももらい福祉のために力を尽くそうと思ったと話されていました。

また、この映画の撮影で、開拓の村や網走刑務所、遠軽の家庭学校でのお話や宿泊した新札幌でのエピソードもあり、身近な話題に客席からも興味深く聞いている様子が伺えました。監督は、「今の若者は人のために尽くすなんて全然無く、お金さえあれば良いという主義がはびこっている。人のために一生を捧げるといふ生き方を伝えたかった。歴史的な福祉家はみんな人のために膨大な財産を残して行ってあげて何一つ自分は持っていくことをできないから置いていった。ただただ人のために尽くした一生と言うのは考えたらそんなマネはできなくても、もうちょっと人に親切にしてもらいたい。そして一度志したら最後まで敢闘するという精神を見習って欲しいということで、福祉のために貢献した人の映画を撮っているのです。」と若い人に見てもらいたいことを訴えていました。

山田監督の熱い福祉に対する情熱で我々の社会に、歴史的な福祉家の生き方を紹介したり若い人たちに伝える

委員会報告

ばあとなあ北海道運営委員会報告 委員長 田巻 憲史

今年度から、ばあとなあ北海道運営委員会の委員長に互選されました十勝地区支部の田巻憲史です。どうぞよろしく願いいたします。

運営委員会は年4回を予定し、成年後見人養成研修（集合委託研修）の準備・運営、成年後見活動報告書のチェック、各地区支部の合議体の運営などを行っていきます。

ばあとなあ北海道運営委員会は、上の11名で構成し、

副会長	高橋 修一	道央
理事	林 富子	道央
	田巻 憲史	十勝
委員長	田巻 憲史	十勝
委員	細谷 義江	道央
	尾形 永造	道南
	瀬川 俊行	道北
	清野 祥子	十勝
	多田 摩由美	釧根
	小山 穂積	オホーツク
	玉木 秀幸	日胆
	白戸 一秀	学識経験者

ためのメッセージとしてアニメ映画を作成されたりと社会の問題に目を向けながら訴えながら日々ご苦労されている姿を通じ、私たちソーシャルワーカーとしてもっと広い視野で社会問題を考え、熱い情熱で政策・制度にも訴えていく必要があると再度気づかされました。柏会長が最後に、我々ソーシャルワーカーとして社会によりPRをして少しでも社会的ポジションに立っていきたいと思いますという言葉で締めくくりこれからの私たちの姿勢を示しながらの記念行事の閉会となりました。

※残念ながら参加できなかった方でトークショーの内容をご希望される方には送料のみで配布いたしますので、事務局までお問い合わせください。

ソーシャルワーカーデイ記念バッジ

500円で発売中！！

全国の社会福祉関係の17団体が加盟する、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会は、2009年度より国民の祝日である「海の日」を「ソーシャルワーカーデー」と誌、日本におけるソーシャルワーカーの取り組みを社会に周知させるべく、各地でシンポジウムや公演などのイベントを開催されています。今回のソーシャルワーカーデーピンバッジは、2011年度より同記念日に係わるイベントなど、様々な場所と機会に使用される予定です。

道事務局もソーシャルワーカーデーで販売したところ、好評いただきました。

ご購入を希望される方は事務局までお問い合わせください。



さらに事務局が相談や多くの事務作業を担ってられています。

ばあとなあ北海道への相談件数は、今年4月～6月末で、合計23件です。その内訳は、右表のとおりです。

「ばあとなあ北海道」名簿登録者は、215名（5月21日現在）となり、ついに200名を超え、受任者、受任件数ともに大幅に増加しています。

また、十勝では家裁からの依頼で初めて保佐監督人に

相談方法	電話	23
	来所	0
相談者	本人	3
	家族・親戚	6
	施設等	14
分野別	認知症	11
	知的障がい	4
	精神障がい	2
	その他	6
相談内容	制度全般	13
	後見人依頼	5
	その他	5

法定後見（後見・保佐・補助） 2011年1月末現在		
地区支部名	受任者数	受任件数
道 央	39	57
道 南	10	21
道 北	8	10
十 勝	21	33
釧 根	10	19
オホーツク	8	9
日 胆	9	19
合 計	105	170

選任されるという事案もでてきており、社会福祉士への期待が直接受任することだけでなく増えてきているようです。道北では、委員が発起人となり市民後見センター設立を目指しており、各

地区支部で社会福祉士が活躍しています。

現在、運営委員会では、単に受任者の後見活動をチェックし、正すのではなく、「受任者をいかに支援していくのか」という視点で、議論を重ねているところです。毎年2月と8月に、「ばあとなあ活動報告」を求めています。

■ 地区支部活動報告

● 道央地区支部

道央地区支部報告と予定をご案内します。

6月25日道央地区ばあとなあ登録者学習会を開催いたしました。テーマは「小樽・北しりべし成年後見センターの動きについて」会員の高田友子氏にご講義をいただきました。不動産所有をしている後見人等や借金をしていた後見人等への対応など事例もあり、参加者は大変興味深い話を伺うことができました。

今後の研修会の予定として8月27日にばあとなあ研修、基礎研修を小樽市において9月3日に開催予定です。若干の空きがございますので希望の方はお早めにお申込ください。

また、前号のかわら版に案内を同封しましたが、次年度の支部活動へのご意見を現在支部ホームページで募集しております。頂いたご意見を支部役員で検討し、9月3日基礎研修後に開催される意見交換会にて次年度の支部活動計画について皆様と意見交換を行ない、活動計画へ盛り込んでいきたいと考えております。皆様よろしくお願いたします
(榎野)

● オホーツク地区支部

オホーツク地区支部では、6月18日（土）に第1回権利擁護研修会として「会員受任者の事例報告会」を開催しました。アドバイザーとして釧路家庭裁判所北見支部主任調査官の小林氏を迎え、会員二名の事例報告を行いました。会員20名程の参加があり、それぞれの事例の現状・困難さ等を参加者で共有し、それぞれ理解を深

ますが、この報告書の内容にどこまで踏み込むのか、受任者にとって役立つようにどう助言をしていくのか、運営委員会の関わり方を明確にしていきたいと考えています。

日本の権利擁護センター「ばあとなあ」からも、「基本的に、被後見人等に不利益にならない対応を組織としても検討してください。ばあとなあの役割は、養成・受任調整・受任者支援という一連の流れがあります」と言われております。受任依頼が増え、養成研修を終えるとすぐに受任することも多く、様々な不安を抱えながらの後見活動を行っている会員もおり、一人で抱え込まず、互いに支援できる組織作りが求められていると感じています。

ご意見、ご要望がありましたら、ぜひ、ばあとなあ北海道運営委員会までお寄せください。

めることができました。今後の予定としては、8月21日に第2回権利擁護研修会の開催を予定しており、8月27日～28日には、道東3地区支部合同で「道東社会福祉士のつどい」が開催されます。

他の地区支部会員と交流を深めることができる年に一回の機会ですので、多くの会員が参加して研鑽及び相互交流が図れればと思います。その後もセミナー等開催を予定しておりますので、詳細が決定し次第会員の皆様に周知、終了後の報告等をさせていただきます。（佐々木）

● 十勝地区支部

学習会の報告

十勝地区支部では、7月5日に第2回目の学習会を、救護施設「東明寮」で「救護施設とは？社会福祉士の視点から」をテーマに開催し、平日の19時からの開催であるにもかかわらず28名と多くの皆さんに参加して頂きました。

学習会では、東明寮の相談員である森脇会員から救護施設について制度的な位置づけと写真を使い実際の生活の様子についてわかりやすく説明をして頂き、研修終了後参加者は「地域移行の取り組み



をしていることは知らなかった」「DVでの入所ケースがあるとは…」等々新しい発見を口にしていました。

今回、救護施設に関心を抱く非会員にも参加していただき、会の活動を知っていただく良い機会にもなりました。

た。 (寺本 圭佑)

今後の予定

8月27日(土) 釧根・オホーツクとの3支部合同の道東社会福祉士のつどいが行われます。今年釧路での開催で「東日本大震災・被災地支援と社会福祉士」をテーマに合同研修会を予定しています。

この他、成年後見人フォローアップ研修、地区支部学習会では高齢者虐待対応ソーシャルワーク研修を予定しています。 (林 栄一)

● 釧根地区支部

【活動報告】

○基礎研修

・地理的に広範なエリアである釧根地区支部では、社会福祉士としての活動の基礎を学ぶと共に、基礎研修受講済みであることが成年後見人養成研修の受講要件の一つであることから1人でも多くの会員が受講しやすいようにと6月22日(水)に釧路、7月2日(土)に根室の計2会場で基礎研修を開催しました。



○定例学習会: 若年性認知症についての学習会～家族の思いと支援の方法

・7月3日(日) 介護者家族の講演では、本人の職場や地域との関わり、本人の思い・家族の思い、地域で暮らし続けるために必要な社会資源についてお話を頂きました。また、就労支援を含めた活動を実践している支援者の方の講演では、如何に支援者側がご本人と対等な関わりを実践し、本人の“したいこと”に寄り添うか、という問いかけがありました。

今回は、介護福祉士会釧根地区支部との共催で29名が参加、同じ法律に規定されている職種として、連携や研鑽の必要性を実感したところです。

【今後の予定】

○8月27日(土)～8月28日(日) 道東三地区支部合同研修会(つどい)(第40回定例学習会)

○9月 第41回定例学習会 セルフヘルプグループについて(調整中)

(宮田)



● 日胆地区支部

市民のための福祉・寺子屋事業(独自事業)

去る6月11日(土)、苫小牧市民活動センターにて市民のための福祉・寺子屋を開催しました。一般市民も含め70

名の参加があり、地域での看取りをテーマに、緩和ケアクリニック・恵庭院長の柴田岳三先生に講演をいただきました。柴田先生が経験した地域での看取りやホスピス・緩和ケアの概要等パワーポイントを使用し、わかりやすく説明していただき、公演の合間には参加者へ、「あなたが希望される看取りの場所はどこですか？」等の質問に対し、7～8割程度が在宅又は緩和ケア病棟での看取りを希望されるなど、参加された方々は興味深そうに聞き入っていて、このテーマへの関心の高さが見受けられました。

今後の予定

○第2回「福祉・寺子屋」事業

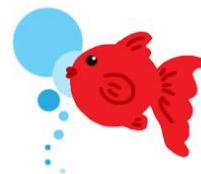
平成23年8月20日(土)

会場: 社会医療法人母恋

日鋼記念病院(室蘭市)

テーマ: 「地域での司法福祉」

講師: 澤下靖典氏(札幌保護監察所)



○第3回福祉・寺子屋事業

平成23年10月

会場: 胆振西部

テーマ: 「精神障がい者の地域支援」

※詳細については調整中



● 道北地区支部

◎ 活動報告

○平成23年度第1回ぱあとなあ道北研修会

平成23年7月14日(木)、旭川市の大町多機能在宅サービスセンターにて今年度第1回目のぱあとなあ道北研修会を「行政書士による成年後見の実情について」と題して、行政書士の田中好幸氏をお招きして実施しました。

当日は、今年度より養成研修を受講される4名の方を含め北は天塩町、南は富良野市より参加いただき約20名の参加となりました。

田中先生は昨年から成年後見等を受任され、現在相談を受けている方も含め40件前後の受任があり、内容の濃い事例検討を行なう事ができ、大変参考になりました。

先生のご協力をいただき、今後も研修会に参加いただきアドバイスをいただける事となりました。

※詳細につきましては 道北社会福祉士会 公式ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.douhoku-csw.org/>

(小笠原)

● 道南地区支部

道南地区支部では毎月、定例会を開催し、学習会や情

報提供、意見交換等を行っています。7月の定例会は7月15日、函館市青年センターにて開催されました。



今回は、「北海道障害者条例」について渡島の地域づくりコーディネーターの藤原茂法氏（道南社会福祉士会 副会長）より条例の目的や現状を、事例を交えながらの説明がありました。続いて、「地域づくり委員会」について渡島総合振興局 渡部氏より説明があり、授産製品パワーアップサポート事業や「道南やるべや市」等イベントの紹介等、地域づくり委員会の活動を知る良い機会となりました。

定例会では、各種委員からの報告やSSWの学習会開催について、日程・学習内容・対象範囲の協議を行っています。今回より協議に伴い、事前に会員へ向け意見集約を行いました。少しでも会員の声を地区支部の研修や運営に反映できるような地区支部体制を作って行きたいと思いをします。

定例会では、各種委員からの報告やSSWの学習会開催について、日程・学習内容・対象範囲の協議を行っています。

今回より協議に伴い、事前に会員へ向け意見集約を行いました。少しでも会員の声を地区支部の研修や運営に反映できるような地区支部体制を作って行きたいと思いをします。

○今後の予定

道南社会福祉士セミナー2011

日程 9月24日(土)

テーマ「成年後見制度の法人後見と市民後見の動向」

場所 函館市民会館 大会議室

(西元)

事務局からお知らせ

●8月～10月のスケジュール

8月	子ども福祉支援セミナー	27	札幌市社会福祉総合センター
	第8回正副会長会議	31	札幌市ボランティア研修センター
9月	介護支援専門員実務研修試験模擬試験	3	札幌市社会福祉総合センター
	日本社会福祉士会支部長会議	10・11	東京都内
	成年後見人養成研修(前期)	17～19	札幌市社会福祉総合センター
	社会福祉士国家試験受験対策講座	18・19	札幌市社会福祉総合センター
	第9回正副会長会議	21	札幌市ボランティア研修センター
10月	第10回正副会長会議	14	事務局
	社会福祉士共通基盤研修①	15	旭川市内
	施設従事者対象「高齢者虐待対応」研修会	8	かでの2.7
	第3回理事会、第1回地区支部長・事務局長会議	22	札幌市ボランティア研修センター
	かわら版29号発行	中旬	

ホームページをご利用ください!

○求人について

当会ホームページ(会員専用ページ内)にて求人案内を定期的に行っております。事業主の方は、ホームページ会員専用ページ内の「求人票」書式にて必要事項を記載していただき、その内容をメールで添付頂ければ掲載致します。

○変更届について

現在当会では広報等をクロネコヤマトケール便にて送付しております。転送されませんので、**変更届の提出をお願いいたします。**

※詳細は事務局までお問い合わせください。

— 会員の動向(6月30日現在) —

- 総会員数 1,578名
(男性:814名、女性:764名)
 - 入会率 24.31%
 - 新入会員数(転入含) 83名
(2011.4～2011.6)
 - 退会員数(転出含) 13名
(2011.4～2011.6)
- ※入会申込書をご希望の方は当会までご連絡下さい

社団法人 北海道社会福祉士会

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地SCビル2階

TEL 011-717-6886 (月～金)

FAX 011-717-6887

9:30～12:00/13:00～16:30

E mail info@hokkaido-csw.org

URL http://www.hokkaido-csw.org/

